項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	独自の理念を玄関及びユニットの正面に掲示し、日常的に家族や職員が目にする事が出来るようにしている。また、入居時や相談時にも家族に説明している。		
2 理念の共有と日々の取組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	職員が毎日目にする所に掲示している。職員全員が理念を理解しているか会議などでも確認し、ケアに迷ったときは理念に沿ったケアに取り組むなど日々のケアに活かしている。		
3 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	相談や入居時に説明している。また、日々の生活の中で理念に沿ってどのような取り組みをしているかも説明している。地域に向けた新聞でも紹介している。		
2. 地域との支えあい			
4 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	外出や散歩の時やホームの前を通りかかった方には、必ずこちらから挨拶をしたり、笑顔で接することを心がけている。		気軽に立ち寄って頂けるような雰囲気づくりやホームの情報の開示に努めて行く。
5 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	町内の夏祭りや、秋の公民館での文化祭への参加を行っている。		今後は町内会の会議や清掃、行事などにも積極的に参加をしていきたい。また防火避難訓練などを新聞でお知らせして、近隣の方にも協力を募りたい
6 事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	運営推進会議で地区の民生委員の方を通して、地域住民の中で認知症に限らず介護方法や健康管理などでの相談を受けることを、お伝えしている。		新聞や町内会の集まりを通して高齢者と暮らしている方々に役立つ専門的、かつ身近な情報を伝える場を持つ。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>	<p>自己評価、外部調査を行う際に施設長から説明をし、再確認している。前回の評価での改善項目はなかったが、定期的ユニット会議などで自分たちに中から様々な改善に向けての意見を出し、実行状況を次の会議で確認している。</p>	<p>新聞や町内会の集まりを通して高齢者と暮らしている方々に役立つ専門的、かつ身近な情報を情報を伝える場を持つ。</p>
8	<p>運営推進介護を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p>	<p>2ヶ月に1回定期で運営推進会議を行い、出された意見については検討・対応し、その結果を次の会議の時に報告している。会議で報告した現状報告の内容や会議録はいつでも確認できるよう、ユニット内にも掲示している。</p>	<p>外部の方の客観的な意見を聞き、他のグループホームの情報も教えて頂く機会を持ち、良いところは取り入れたい。</p>
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>	<p>地域ケア会議での話し合いや利用者相談、入居状況や運営上の相談など、日常的に行き来している。日々のサービスの細かいことも相談し、質の向上に努めている。</p>	
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p>	<p>施設長は研修や市の地域ケア会議等で学ぶ機会を得ており、実際に利用者のケースの相談にも活用している。</p>	<p>管理者や職員にも研修機会があれば参加を促し、必要性の理解を深めたい。</p>
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがない要注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>高齢者虐待防止については施設長や一部職員が研修や講演会での学びを得ており、理解している。毎月のユニット会議や日常的にも、ケアについての細かい点での確認を行っており、全職員が虐待防止には細心の注意を払っている</p>	
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>利用者や家族の疑問や不安には一つづつお答えし、十分理解し納得していただけるような説明に努めている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者との信頼関係を持つことに努め、意見や不満などが言いやすい雰囲気環境作りに努めている。思ったことが言えない、表現できない方には職員が気がつくように日々の様子をきめ細かく観察している。気になることや意見などがあればユニット会議で検討している。		外部にも表せるような機会を持つ。
14 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	隔月に「北のくにから便り」を発行し、日々の生活の様子や健康状態、受診状況、ホームでの出来事や職員の異動なども報告している。健康上の変化や緊急の受診などは電話で速やかに家族へ連絡・報告している。金銭出納については、毎月請求書と共に領収書や帳簿の写しを全て送付している。面会時は家族に気がついたことを伝えたり、要望を聞くなど声をかけている。		
15 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者との信頼関係を持つことに努め、意見や不満などが言いやすい雰囲気環境作りに努めている。思ったことが言えない、表現できない方には職員が気がつくように日々の様子をきめ細かく観察している。気になることや意見などがあればユニット会議で検討している。		口では言いにくいことや記名では書きにくいこともあるかも知れないので、文書で表せるようなものを作成する。それを外部へ表す機会を持つ
16 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	利用者との信頼関係を持つことに努め、意見や不満などが言いやすい雰囲気環境作りに努めている。思ったことが言えない、表現できない方には職員が気がつくように日々の様子をきめ細かく観察している。気になることや意見などがあればユニット会議で検討している。		
17 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	状況に合わせて、相談して柔軟に対応している。		
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	利用者へのダメージを十分理解しており、最小限にするよう十分配慮している。必要時はユニット内、各ユニット同士で十分話し合い実施している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>実践者研修や管理者研修、希望の研修、そのほか専門職の研修にも参加させている。</p>	<p>外部者にあわせるような機会を持つ。</p>
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>恵庭市のグループホームネットワーク会に加入しており施設長と前任管理者が参加していた。</p>	<p>新任管理者も参加し、職員同士の交流会も計画されている。</p>
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>話しやすい雰囲気づくりに努め、気がついたときにはこちらからも声をかけている。また、アンケートや管理者からの報告を元に面談も実施している。最低年1回は親睦会も開いている。</p>	<p>個別面談やユニット会議などで、どんなことがストレスとなり得るのかも聞き、早期対処して行きたい。</p>
22	<p>向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>	<p>管理者を通して勤務状況を把握し、意欲の向上が図れる配慮に努めているが、細かい部分での説明不足などによる誤解もある。</p>	<p>不信感を抱いたり、意欲が損なわれないよう必要な説明や、書面での対応をしたい。</p>
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会を作り、受け止める努力をしている。</p>	<p>入居前の電話相談や見学の際に不安なこと、困っていることなどをしっかり聞き、どんな生活になるのか、どんなことをお手伝いできるか具体的なイメージがわくような説明に留意している。</p>	
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会を作り、受け止める努力をしている。</p>	<p>入居前に施設関係者やケアマネ、ご家族が事前相談し、実際の見学の際にも不安なこと、困っていることなど意見や希望を十分に聞く時間を設けている。また、医学的なことについては施設長から理解しやすいような説明をしている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	相談のとき十分な話し合いをし、対応している。		
26 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	本人の希望や状態に合わせて、少しずつ進めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	出来ることを職員が把握し、機会を見ては声を掛けて一緒にいろいろなことを行う中で、ともに笑い喜んでいる。また、役割を大切に、ゆっくりと同じ時間を過ごせる工夫もしている。		
28 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	家族と同じ視線で考えられるような関係性がもてるよう留意している。		
29 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	本人・家族の状況を把握し良い関係性が続くよう心がけている。		何でも気軽に相談したり話し合えるような雰囲気を作りたい。
30 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	定期的なお便りや電話、面会時にも近々の様子を伝えている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	利用者同士で楽しく和やかに生活出来るよう、必要なときは職員が間に入ったり、気持ちを転換できるような関りに心がけている。		
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	全員ではないが、本人や家族の状況を考慮して連絡等行っている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	その人にとってのよりよい暮らしとは何かを考えながらケアを行っている。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	センター方式でのアンケートや本人・家族からも直接情報を得ている。		職員全員が情報を把握できる方法を考えている。
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	生活パターンの把握に努め、申し送りしている。本人の状況に変化があった場合は、何が影響しているのか把握するため、センター方式のシートを活用し総合的な把握ができるよう努めている。		職員全員が情報を把握できるよう申し送りの徹底に努めている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。</p>	<p>家族や職員に情報提供をしてもらい、計画作成に当たっている。会議の時や適宜状態の把握を行い計画に反映するよう努めている。</p>	<p>職員が持っているさまざまな細かい情報を、全員が持ち寄ることでもっと良い計画になるようにしたい。そのためユニット会議での個別カンファやショートカンファランスも計画している。職員自身が計画案を作れるような体制にもして行きたい。</p>
37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。</p>	<p>現時点では介護支援専門員のみが見直しを行っており、不十分である。</p>	<p>もっと現状を知っている職員や家族にも意見やアイデアを募り、本人にとって楽しく嬉しくなる計画ができるように努めたい</p>
38	<p>個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに生かしている。</p>	<p>記録様式を変更し、介護記録は単に記録するものではなく、実践やケアに活かしていけるようにしている。スタッフも認識し利用している。</p>	<p>介護計画が実践できるよう情報源として今後も活用して行きたい</p>
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。</p>	<p>介護計画が実践できるよう情報源として今後も活用して行きたい</p>	
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40	<p>地域資源との協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。</p>	<p>全体的な取り組みとしてボランティアや小学校、民生委員とも協力しながら支援している。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
41 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	現時点では時に利用はしていない。必要が生じれば検討する。		
42 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	定期的な恵庭市包括ケア会議へ出席し、研修や講演にも参加したり、日常的にも電話での情報交換を行うなど協働している。		
43 かかりつけ医の受診支援 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	常勤の看護師が職員とともに毎日の健康管理を行っている。また、24時間の連絡体制をとっており、緊急時の対応や受診の調整なども行っている。		
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	精神科の協力病院があり定期的、必要時の受診相談や治療に関する相談の支援をしている。		
45 看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	常勤の看護師を確保しており、日常の健康管理や医療に関する連携も支援している。		
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	病院関係者と常に連絡・連携に努めており、早期退院へ向けての支援を行っている。医師からの状態説明やインフォームドコンセントがある場合は、看護師が家族とともに直接医師から話を聞いている。判断に困るときは本人・家族へ説明の追加や、本人・家族からの希望も伝えるなどの支援をしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	重度化したときの指針を設け、入居時に説明をしている。必要時は家族とも話し合い、医師に状況を伝え、変化に対応でききるような体制をとっている。		
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	状態の把握や本人・家族の意向を全員が把握・理解し、医師とも相談しながら支援を進めている。		
49 住替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。	住み替えによる影響やダメージについては、職員全員が十分に理解しており、住み替えが必要な場合、必要な情報や話し合いのもとで実施している。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重			
50 プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。	連絡ノートや口頭で互いの注意を喚起している。		
51 利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや記号を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	「はい」「いいえ」での返答や首ふりでの意思表示など、本人の意思が反映しやすい方法を考慮して、支援を進めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
52 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	自分の思いをうまく言えない方に対しては、気持ちを理解しようとするを大切に、考え、行動している。本人の希望が言いやすい雰囲気づくりにも気を配っている。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、利用・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	清潔な衣服、整髪などに心がけている。理容・美容院は訪問してくれるところで、家族とも相談しながら利用している。		
54 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしているか。	利用者様に出来ることは積極的にしていただくよう努めている。		
55 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	買い物や調理の時に利用者に声をかけて、希望のものは購入するようにしている。		甘い物を好む方が多く、今後も飴なども検討しながら購入をしたい。
56 気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるように支援している。	センター方式での概ねパターンの把握に努めてはいるが、十分ではない。習慣なども活かしきれしていない。		更に詳しく分析し検討しながらおむつの使用は減らしたい。
57 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	日によって入浴の順番は大体決めている。希望やタイミングが合えば入浴していただくこともあるが、全員の希望には合わせられないのが現状である。		勤務体制の問題もあるが、検討していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
58 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、安心して気持ち よく休息したり眠れるよう支援 している。	処置や声かけ、添い寝など希望 や訴えには対応している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 役割、楽しみごと、気晴らしの 支援 張り合いや喜びのある日々を過 ごせるように、一人ひとりの生 活暦や力を活かした役割、楽し みごと、気晴らしの支援をして いる。	昔の話を聞いたり、その人を 知ろうとする努力はしているが、 現状はまだ不十分である。		生活歴をもっと詳しく知り、 楽しみや習慣などもっとその 人を努力をしていきたい。
60 お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つこと の大切さを理解しており、一人 ひとりの希望や力に応じて、お 金を所持したり使えるように支 援している。	現時点ではホームでの管理と している。		本人状況に合わせて対応を 検討する。
61 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず に、一人ひとりのその日の希 望にそって、戸外に出かけら れるよう支援している。	希望があればいつでも戸外 に出かけられるよう支援して いる。他のユニットとの連携 の体制もある。		
62 普段行けない場所への外出 支援 一人ひとりが言ってみたく い普段は行けないところに、 個別あるいは他の利用者や家 族とともに出かけられる機 会をつくり、支援している。	一人一人の希望には添って いないが、機会を見計らい 外出支援している。		利用者各人の希望先への 外出の支援を行いたい。
63 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自ら が電話をしたり、手紙のやり 取りができるように支援して いる。	基本的には電話は掛けたい ときに掛けられるよう支援 している。(家族の都合に合 わせた対応や仲介する場合 もある)		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
64 家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	面会時、家族とのコミュニケーションを取るよう努めている。(挨拶、声かけ、お茶を出すなど)		
(4) 安心と安全を支える支援			
65 身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	職員全員へ周知を図っているが、一部知識不足の職員もいる為、ユニット会議や日々のケアの確認の時に互いに注意を促している。		正しい理解と実践を職員全員ができるよう学習や研修会参加を考えた い。
66 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	職員全員が周知をしており、施錠は行っていない。		
67 利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	昼は目配りや見守り、声かけでの対応、夜は巡回や見守りで配慮に努めている。		
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	危険度が高い物以外は、見守り強化で対応している。		
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	ヒヤリハットが生じた場合は申し送りや回覧で全員に周知を図り、原因や対策を具体的に出し、事故につながらないよう取り組んでいる。また、安全委員会があり、ヒヤリハットが2件出たら召集し、会議の中で該当利用者のみならず、利用者全員の状況把握の見直しと対策を講じ、事故防止に向けた対策に努めている。		年1回のホームと消防署の火災訓練のほか、近隣地域の人とも協力した地震や大きな災害時の避難訓練も実施したい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
70 急変や自己発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	それぞれのマニュアルがある。急変が考えられる場合の個別の対応方法も記録しており、夜間にも看護師から連絡を入れ、状態に応じた対応方法を伝えている。また、応急手当などの研修にも参加しているが、訓練は行っていない。		今後全員が応急手当の方法をしっかりと理解し実践できるよう、恵庭市グループホームネットワーク会での勉強会を計画している。
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	現在は行っていない。		地域の避難訓練への参加をして、避難場所や対応の仕方を学びたい。また、施設での火災訓練には地域の方にも参加をお願いしたい。
72 リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。	面会時や電話、定期のお便りなどで伝え話し合っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	変化、異変について職員の気づき報告、対応について一本化なされている。		
74 服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	協力薬局の薬剤師が来てくれ、変更や注意が必要な点は伝えてくれる体制をとっている。カードックスに利用者の薬情報を入れてあり、適宜確認できるようにもなっているが、個々の薬の把握が不十分。		服薬による変化なども意識していけるよう、薬情報を再確認、把握できるようにしたい。
75 便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	水分確保や乳製品を取り入れるなど工夫をしている。また、繊維、根菜なども積極的に取り入れている。		もっと身体を動かす働きかけを行いたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れやおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	利用者様に応じてうがいや義歯の洗浄など、口腔ケアを行っている。		
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	献立表で栄養バランスを考えたメニューの検討を行っている。食べる量水分量は個々の記録で概ね把握できている。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアルがあり、それに沿った実施をしている。外部の方にも実施していただくために、掲示や声かけなどの対策を行っている。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	調理用具などは消毒するなど衛生管理を行っている。定期的な冷蔵庫掃除、食材は日々の買い物で新鮮なものを購入している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	玄関先はスロープになっている。ホーム前には花壇があり季節の花が植えてある。適宜玄関にも季節の花を置いている。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用にとって不快な音や光がないように配慮し、生活観や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	利用者の好む優しいBGMを流したり、照明は時間帯やなどで調整している。ときどきアロマも使用している。壁には外出時の写真や利用者が作った飾りを掲示している。また、室温調整もこまめに行っている。足音などにも配慮している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
82 共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	共用空間内にソファやテーブルを設置し、談話コーナーのような形をとっている。		
83 居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居時に説明し、本人の使用していた楽器や食器、置き時計、写真などを持参していただいている。		
84 換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	温度調節や空調を使った換気を行っている。冬でも、毎日最低1回は外気を取り入れている。排泄後の臭気が残っているときはすぐに外気を取り入れ、瞬時に換気できるように努めている。必要時に応じて消臭剤も使用している。		利用者の個人個人に対して、もう少し配慮をしたい。(寒がりの人などはブランケットやセーターなどを使用する。)
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85 身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	生活動線にはできるだけ障害物を置かないようにしている。フロア内の壁には、手すりが配置されている。車椅子の人が自由に動けるような空間確保にも留意している。		
86 わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	トイレや浴室の大きな表示、居室には利用者ごとに異なる花を使った目印をしている。		
87 建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	庭にはパラソルや椅子を置き天気の良い日は外でくつろいでいただいている。花壇には花や野菜を植え、成長する楽しみや育てる楽しみを持っていただいている。		

. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる ☐ ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんど掴んでいない
89	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある ☐ 毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている ☐ ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている ☐ ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている ☐ ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ☐ ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている ☐ ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている ☐ ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい ☐ 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています ☐ ほぼ全ての家族 家族の2 / 3くらい 家族の1 / 3くらい ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている ☐ ほぼ毎日のように ☐ 数日に1回程度 ☐ たまに ほとんどない

. サービスの成果に関する項目		
項目		取り組みの成果
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	☐ 大いに増えている ☒ 少しずつ増えている ☐ あまり増えていない ☐ 全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	☒ ほぼ全ての職員が ☐ 職員の2/3くらいが ☐ 職員の1/3くらいが ☐ ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	☒ ほぼ全ての利用者が ☐ 利用者の2/3くらいが ☐ 利用者の1/3くらいが ☐ ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	☒ ほぼ全ての家族等が ☐ 家族等の2/3くらいが ☐ 家族等の1/3くらいが ☐ ほとんどいない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載) 一日一日を大切に、ゆったりとした時間の中で、その人らしく過ごしていただく工夫を職員が意見を出し合い、同じ目標に向かって仕事をしている。利用者さんと共に、職員も楽しく笑顔で過ごせるグループホームにしたい。